

○関根 祐子¹, 菅原 満², 小澤 光一郎³, 中嶋 幹郎⁴

¹千葉大院薬, ²北海道大院薬, ³広島大院医歯薬保, ⁴長崎大院医歯薬

薬学部における“医療現場において薬剤師が職能を十分に発揮できる高度な能力の養成”を目指した「実践的医療薬学教育プログラム」共同開発では、これまで学部教育の現状と今後の計画について調査、報告してきた。今年度は、学部教育に加え、大学院教育における「チーム医療・地域医療プログラム」についても、各大学の現状について担当校（広島大学（リーダー校）、北海道大学、千葉大学、長崎大学）国立大学 14 大学を対象にアンケート調査を実施した。

アンケート項目は、「大学院教育のなかで、医学部及び附属病院、薬局とチーム医療・地域医療プログラムを計画しておられますか?」、「連携先は病院ですか、薬局ですか?」、「具体的にどのような内容ですか?」というものであり、「大学病院における専門領域のアドバンスト実習」、「薬剤師会との共同研究を通じた臨床教育」など、様々な意欲的取組みが計画されていることが明らかとなった。

また、「学部教育において、長期実務実習以外での実習や研究など、連携を必要とする取組みを計画しておられますか?」という質問に対しては、ほとんどの大学が昨年度と同様の計画を継続していると回答し、学部教育における取組みはほぼ一段落している様子が示唆された。

本教育フォーラムでは、集計結果を中心に報告し、大学院博士課程のモデル教育プログラムや学部各部教育における実践的医療薬学教育プログラムの開発に向け、いくつかのプログラムについて紹介する。